

令和8年度 授業と学級づくりのポイント

学習指導

(考える流れが起点)

自律した学習者

子供たちの学びを支える「両輪」



学級経営

(安全・安心な環境)

児童生徒の思考をつなぐ単元づくり

「何を教えるか」より「どう考えていくか」
「教える順番」ではなく、「考える流れ」が設計の起点です。

問いが深まる構造

< 「考えたくなる問い」の設定 >

- 最初の気付き・素朴な疑問からスタート
- 各時間のめあてとつながる問いを設定し、学習を通じて、問いが更新・深化していく単元構想を意識する



「個人・協働・全体」の組合せ

< 場の使い分けで深める >

- 一人で考える場 ⇄ 対話で広げる場 ⇄ 全体で方向付ける場
- これらの場を目的や児童生徒の状況に応じて使い分ける



「主体的・対話的で深い学び」へ

< 主体的に学びを調整する >

- 「見通し→追究→振り返り」の流れ
- 単元にこのような流れを位置付け、振り返りを意味付け・価値付けし、次の問いにつなげる

◇ 学級経営の基盤となる教師の姿勢 ◇

- 「結果」より「過程」を価値付ける
- 「挑戦」したことを大切にする
- 振り返りで「次につながる問い」を残す

※教師が細かく指示しすぎないこと、うまくいかない時も、すぐに正解を与えずに「見守る」ことを意識しましょう

心理的安全性のある環境づくり

自己存在感の感受

「自分がここにいていい」
・役割をもち、協力して活動する場面を音図

共感的な人間関係の育成

「あなたのことが分かった」
・教師は結論を急がず、児童生徒の気持ちを言語化して返す

安全・安心な風土の醸成

「ルールが安全・安心の土台に」
・子供と一緒にルールや決まりを考える

自己決定の場の提供

「自分で選んで動く」
・失敗や迷いも含めて自分で考えて、選び、決める経験を設ける

雪遊びを考える話合いの例



雪合戦をしたいです。体を使って遊びたいです!



私は、走ることが苦手だし、雪玉を当てられるのが怖いです。



雪合戦だけではなく、他に何かできないかな?



みんなでかまくらを作るのはどう? 走らないし、協力もできるよ。

雪合戦をした後で、かまくらを作るのもいいと思います。

それなら、私も参加したいです! 雪遊びが楽しみです!

◇ インクルーシブな学びの場へ ◇

誰もが参加できる場の設定や、多様な意見や少数意見を認め合ったり尊重したりするインクルーシブな環境が、一人一人の自己存在感を育てます